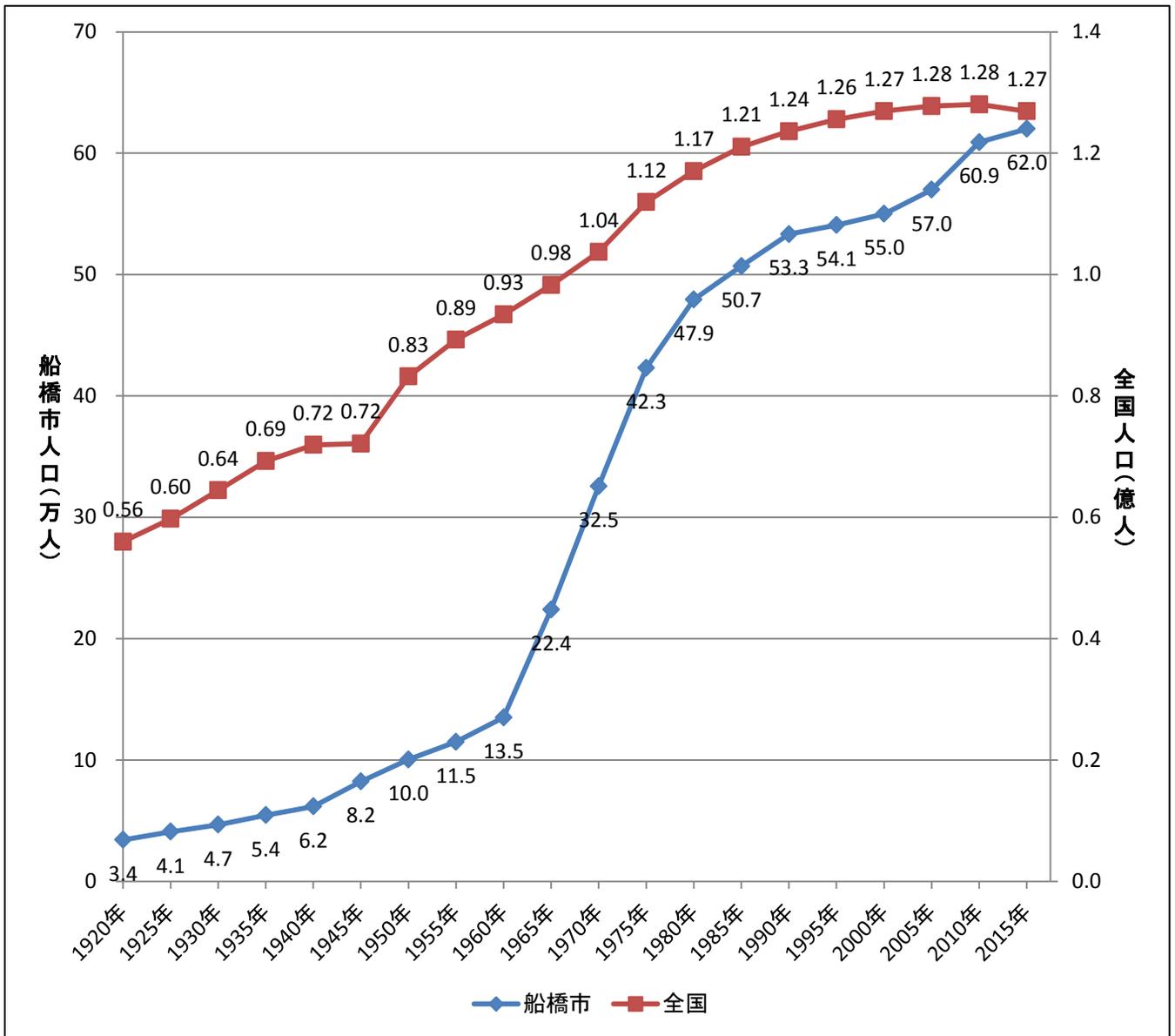


船橋市の人口動向分析

要旨

- 船橋市は、大正9(1920)年以来、現在まで人口が増え続けている。全国では人口減少局面に入ったが、船橋市はなお人口増加が続いており、平成27(2015)年に62万人に到達した。【図1関係】
- 近年、老年人口が急激に増えている一方、生産年齢人口・年少人口は微増もしくは横ばい状態である。【図2関係】
- 1960年代以降、人口の自然増(出生数が死亡数を上回っている状態)が続いているが、死亡数が出生数に迫っており、今後は自然減(死亡数が出生数を上回っている状態)に転じることが推測される。【図3,4関係】
- 1960年代から1970年代にかけては、転入数が転出数を大きく上回っていたが、1980年代から1990年代にかけては、概ね均衡し、転出超過となった年もあった。2000年代以降は再び転入超過の状態となっている。【図4関係】
- 合計特殊出生率は、平成17(2005)年を底に、現在は回復傾向にあるが、全国平均には届いていない。【図5関係】
- 男女とも、10代後半から20代までの転入超過が特に多い。その転入元としては、東京圏以外と千葉県他市町村が大半を占める。【図6,7,8関係】
- 東京都へは多くの年代で転出超過となっている。ただし、0~4歳については転入超過となっている。通勤等の関係で東京都へ転出する人が多いことが予想される一方、乳幼児を持つ世代の東京都からの流入は多い。【図6,7関係】

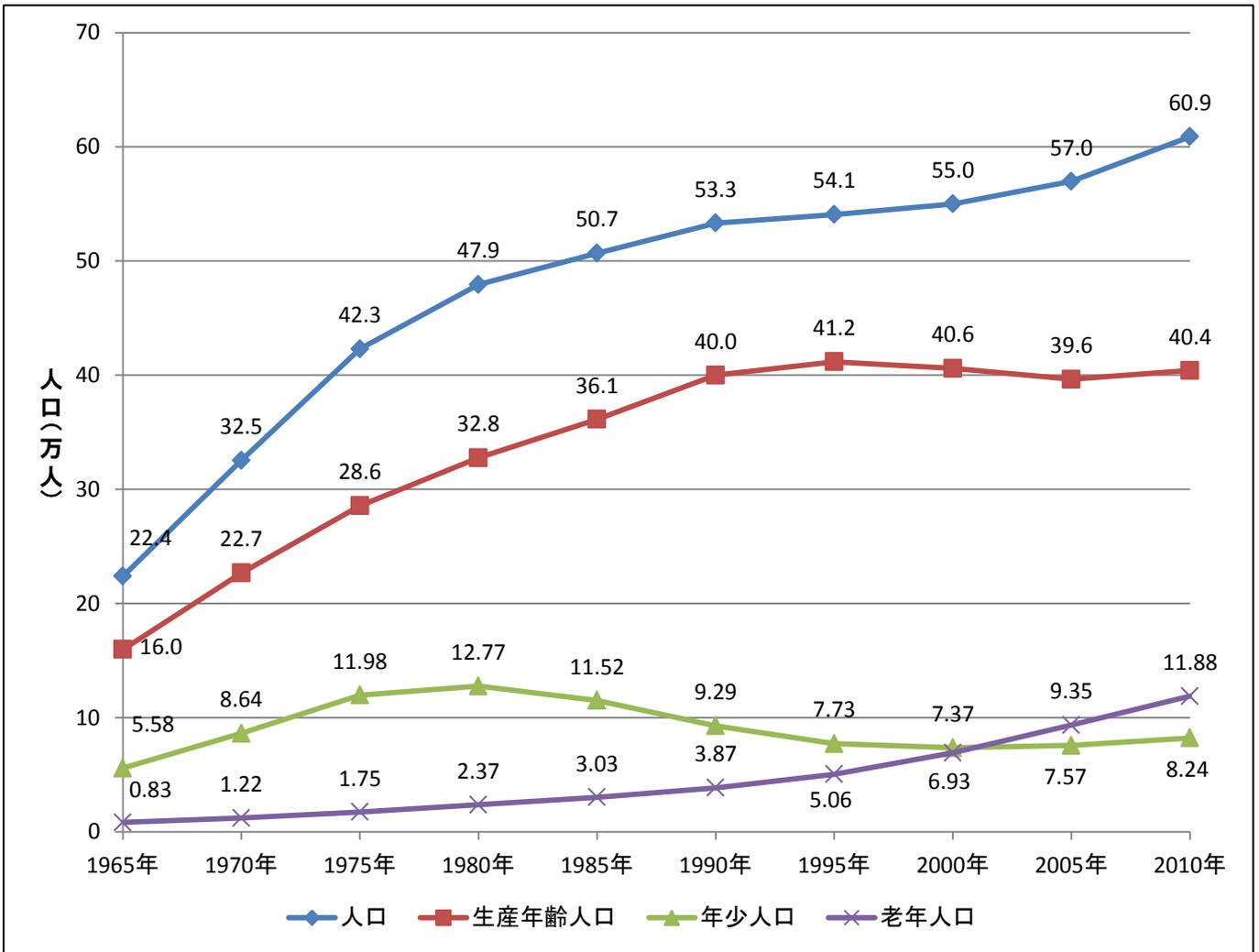
図1 総人口の推移



※「国政調査」より作成。2015年のみ、全国人口は総務省統計局発表の3月1日現在の人口推計値(概算値)、船橋市人口は直近の国勢調査結果を基準として集計した3月1日現在の常住人口値。

- 船橋市の人口は、1960年代～1970年代に全国の増加率を上回るペースで急増した。
- 全国では人口減少局面に入ったが、船橋市はなお人口増加が続いており、平成27(2015)年に62万人に到達した。

図2 年齢3区分別人口の推移(船橋市)

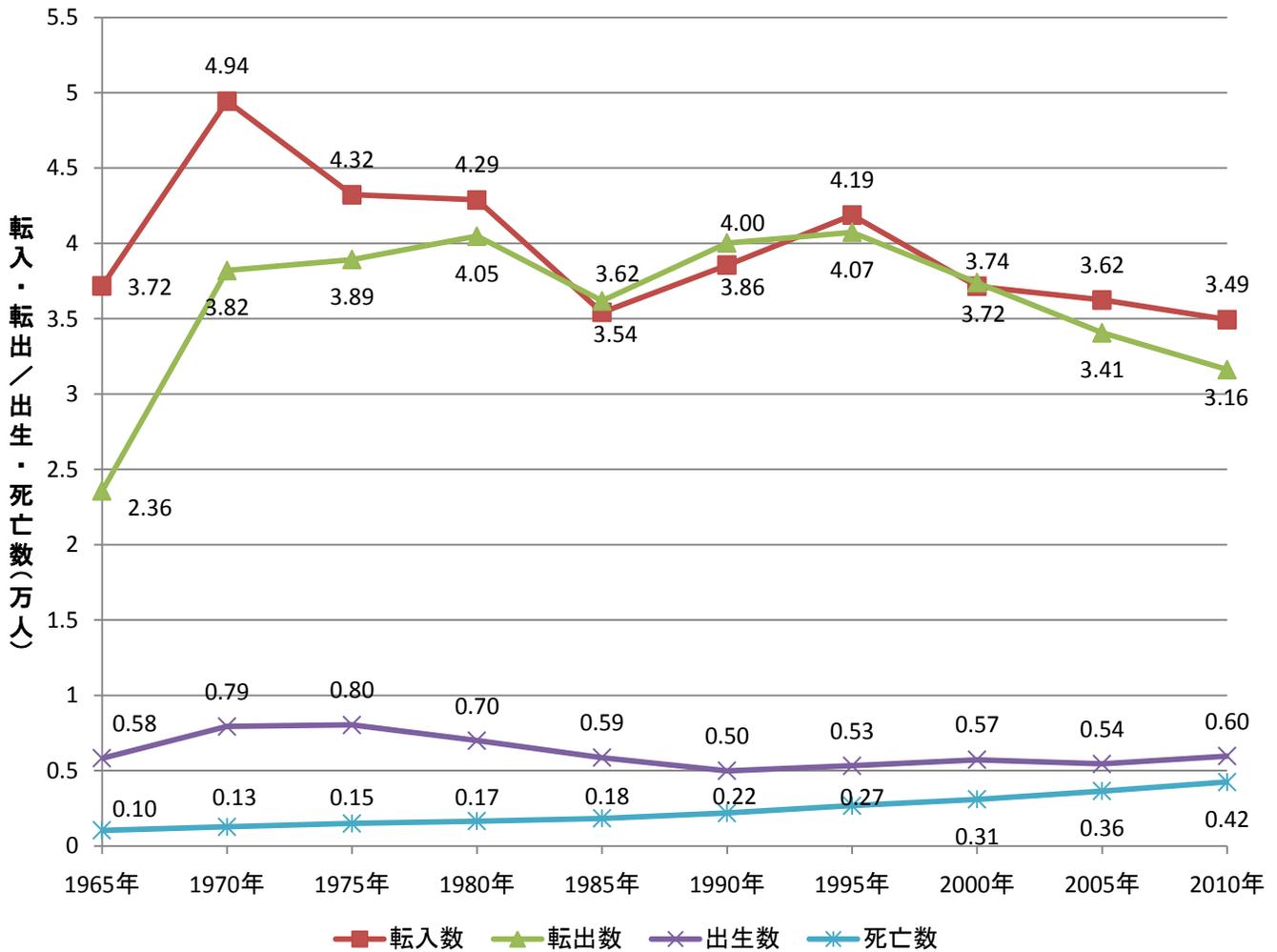


※「船橋市統計書」「千葉県統計年鑑」より作成

生産年齢人口:15~64歳の人口 年少人口:15歳未満の人口 老年人口:65歳以上の人口

- 生産年齢人口は、1960年代～1980年代にかけて増加し、1990年代以降は現在まで40万人前後で、ほぼ横ばいで推移している。
- 年少人口は、1960年代～1970年代にかけて増加したが、1980年の12.77万人をピークに、1980年代～1990年代は減少に転じた。2000年代に入ると、再び緩やかに増加している。
- 老年人口は、平成22(2010)年に11.88万人と、平成2(1990)年比で3倍以上、昭和40(1965)年比で14倍以上と、急激に増加している。

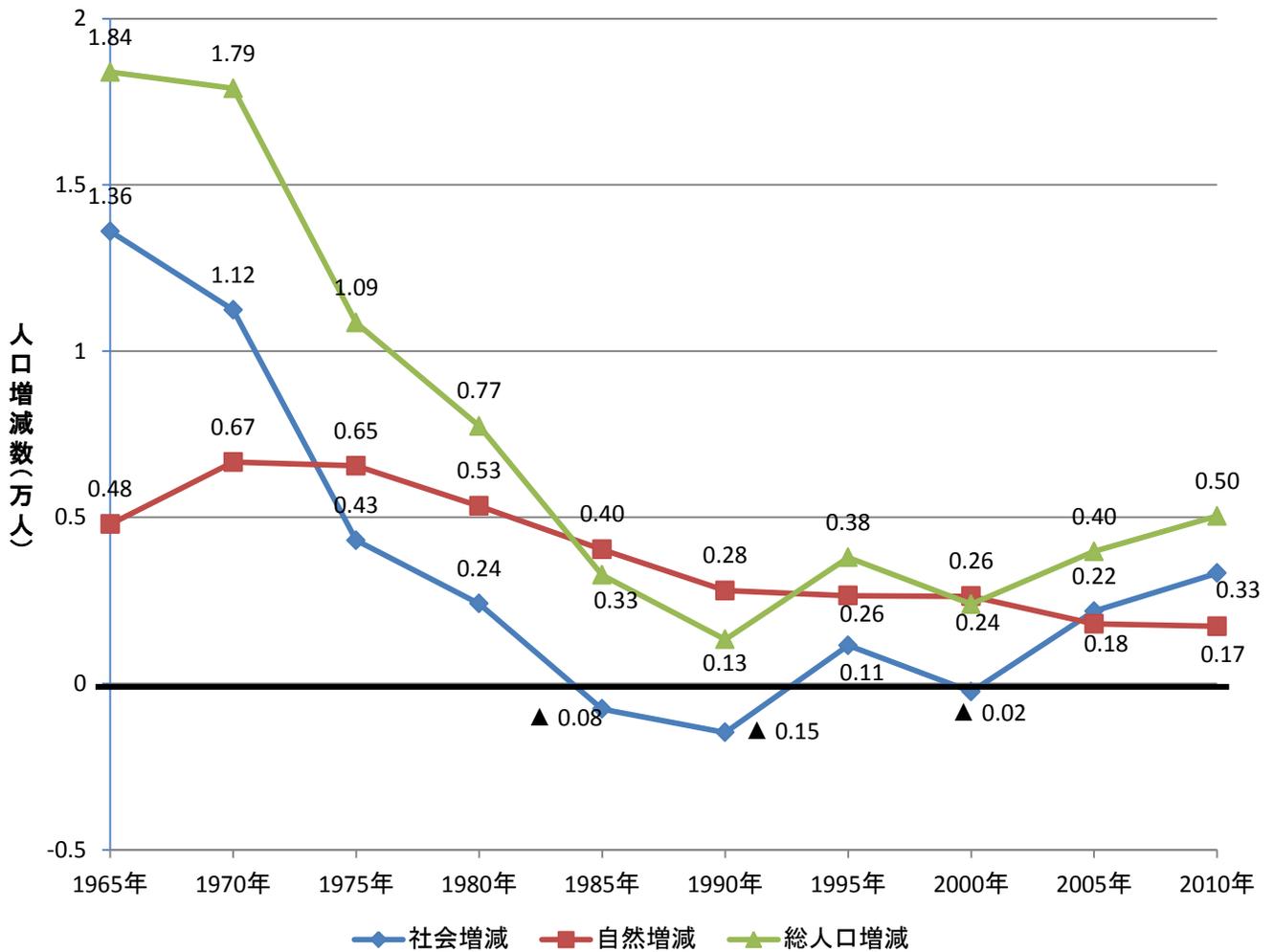
図3 出生・死亡数、転入・転出数の推移(船橋市)



※「船橋市統計書」「千葉県統計年鑑」より作成

- 1960年代から1970年代にかけては、大幅な社会増(転入超過)が続いたが、1980年代から1990年代にかけては、転入数と転出数が概ね均衡し、2000年代以降は再び社会増(転入超過)の状態となっている。
- 平成2(1995)年以降、転入・転出数とも減少傾向にある。
- 近年、死亡数が増えている一方、出生数は微増・横ばいの状態である。現在のところはまだ自然増(出生数が死亡数を上回っている状態)が続いているが、今後、同じ傾向が続けば逆転し、自然減(死亡数が出生数を上回っている状態)に転じることが予想される。

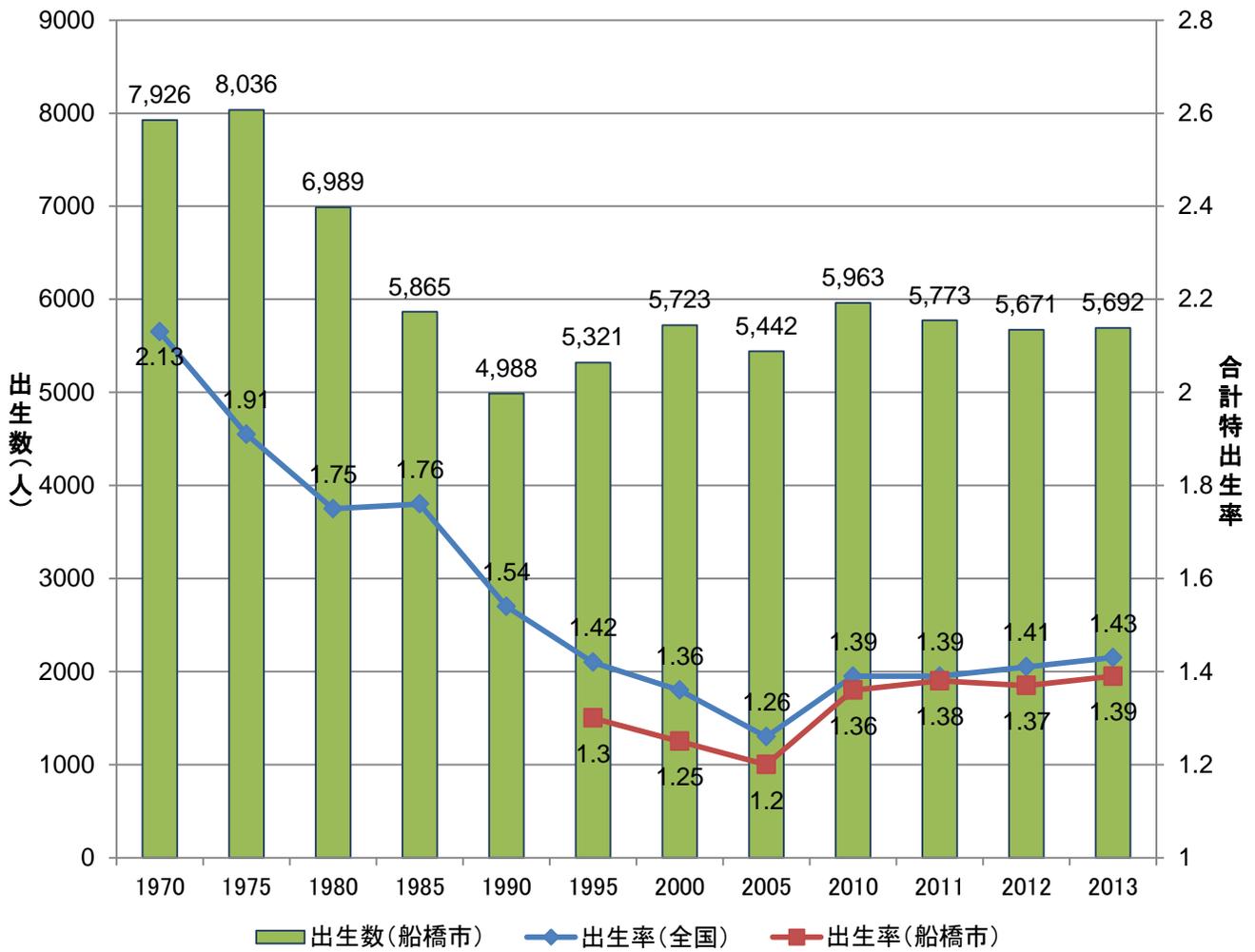
図4 総人口増減・社会増減・自然増減の推移(船橋市)



※「船橋市統計書」「千葉県統計年鑑」より作成
 社会増減: 転入数－転出数 自然増減: 出生数－死亡数

- 昭和40(1965)年以降、船橋市の総人口は増加を続けている。
- 昭和40(1965)年以降、自然増(出生数が死亡数を上回っている状態)が続いているが、増加数は徐々に減っている。
- 昭和40(1965)年には1.36万人だった社会増(転入超過)が、以降は年々減り続け、昭和60(1985)年及び平成2(1990)年は、社会減(転出超過)となった。その後は、平成12(2000)年に社会減になったが、平成22(2010)年は0.33万人の社会増に回復している。

図5 合計特殊出生率と出生数の推移



※「船橋市統計書」「千葉県統計年鑑」より作成
 合計特殊出生率:一人の女性が一生の間に生む子どもの数を示す指標

- 船橋市の合計特殊出生率は、平成17(2005)年に1.2に落ち込んだが、その後は回復し、平成25(2013)年は1.39と回復傾向にある。しかし、全国平均には届いていない。
- 出生数は、平成2(1990)年に5,000人を下回ったが、その後は5,000人から6,000人の間で推移している。

図6 5歳階級別地域別社会増減の状況(平成25年・船橋市・男性)

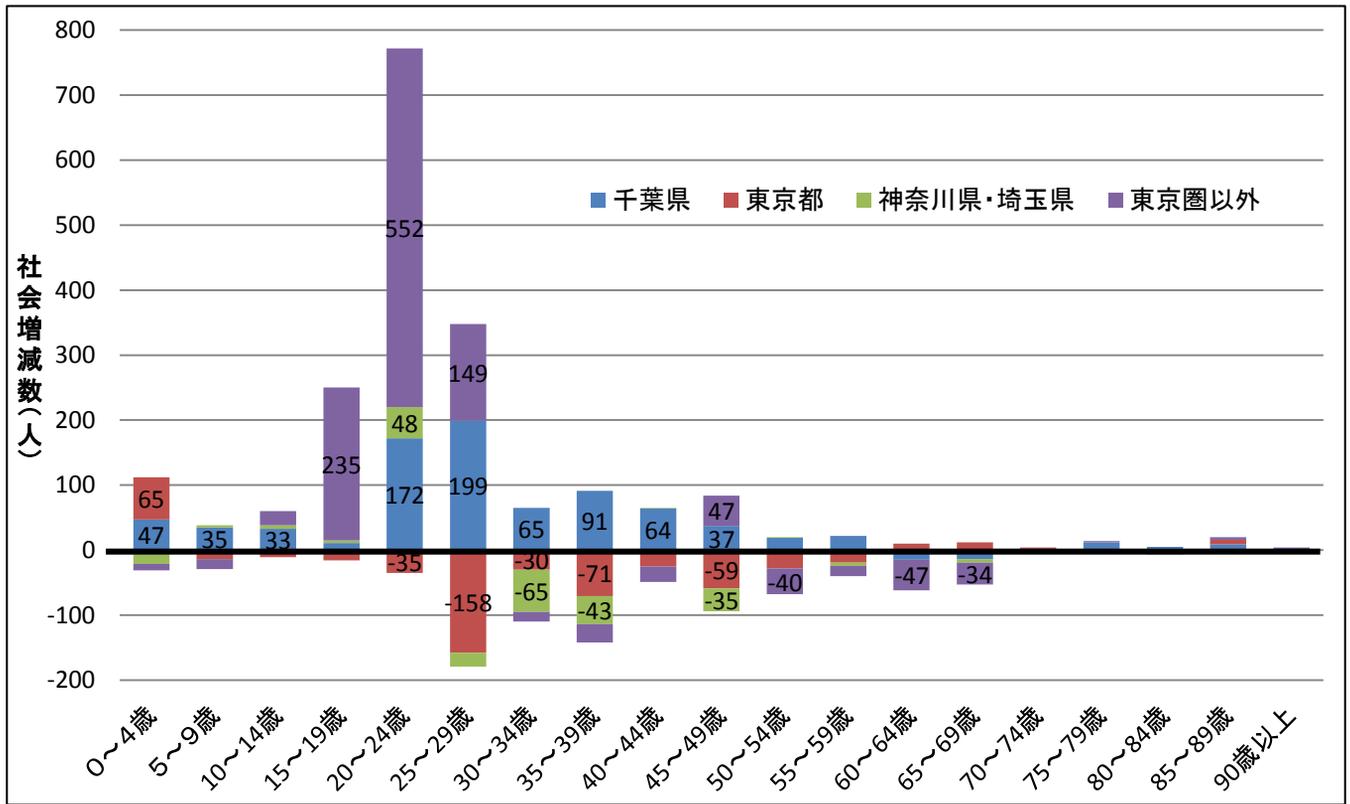
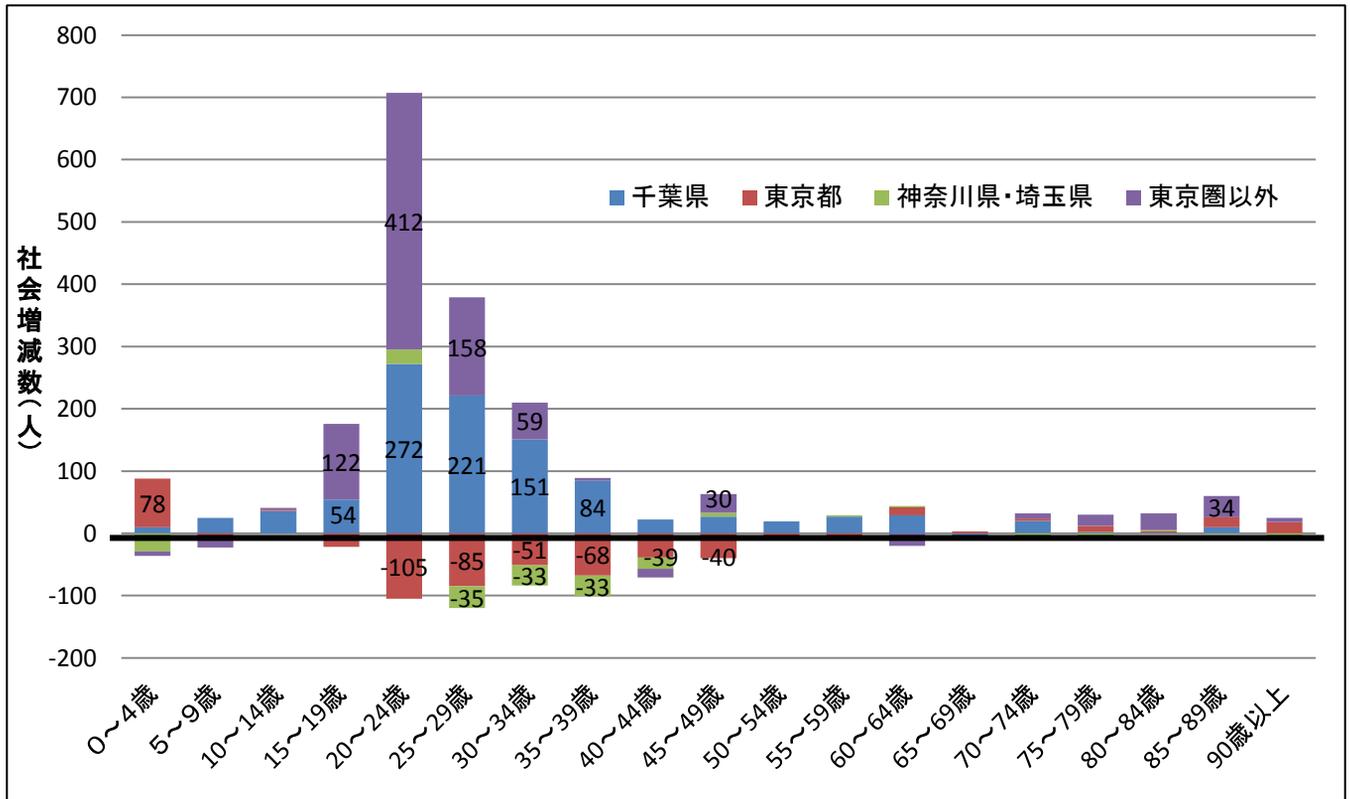


図7 5歳階級別地域別社会増減の状況(平成25年・船橋市・女性)

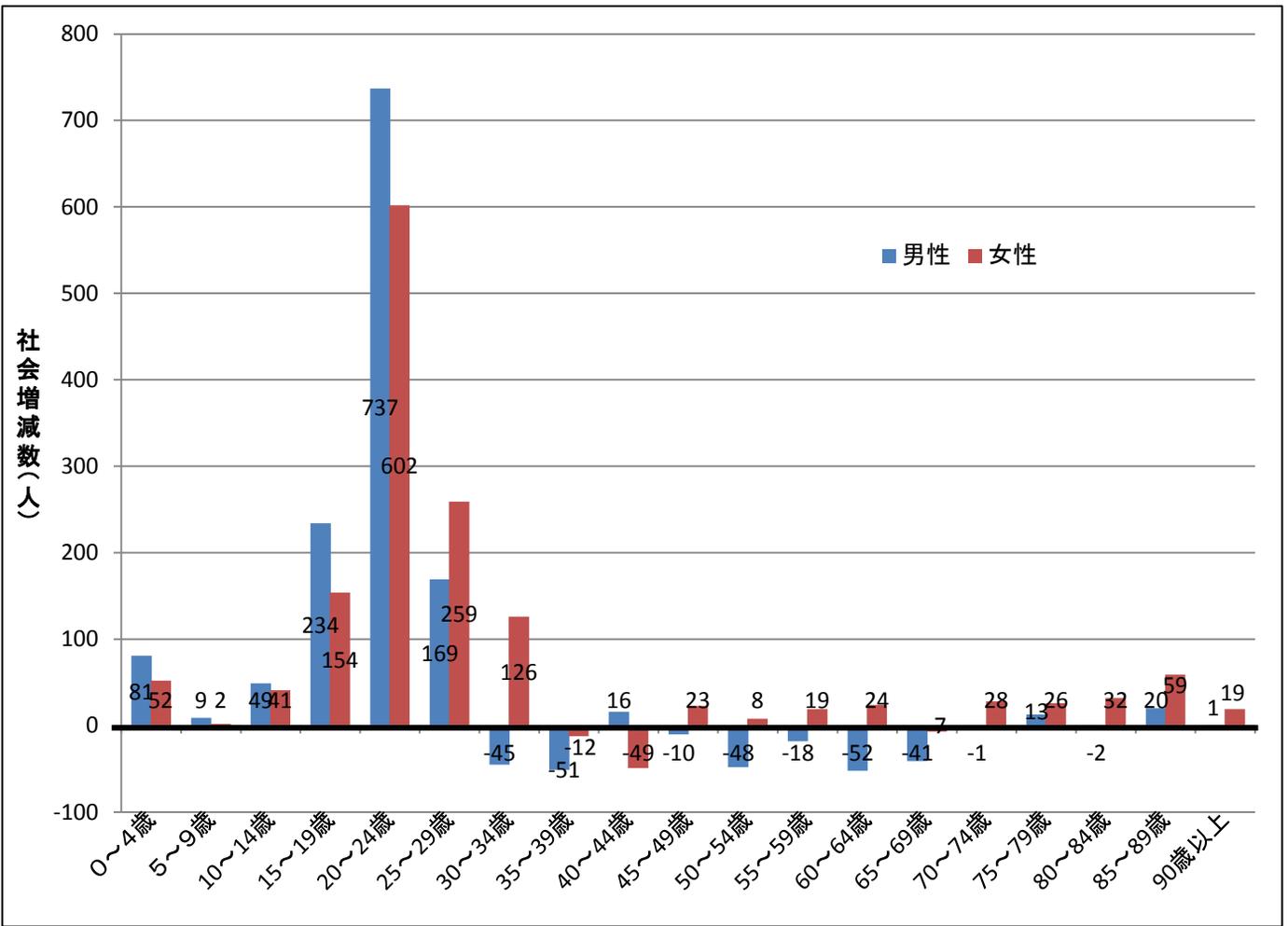


※内閣府提供のデータより作成

社会増減: 転入数 - 転出数

東京圏以外: 千葉県・東京都・神奈川県・埼玉県以外の道府県

図8 5歳階級別男女別社会増減の状況(平成25年・船橋市)



※内閣府提供のデータより作成

- 男女とも、20～24歳の社会増(転入超過)がもっとも多い。他に、100人を超える転入超過がある年代は、男女の15～19歳、25～29歳と、女性30～34歳である。
- 男性は、30代以上のほとんどの年代で社会減(転出超過)となっている。
- 東京圏以外からの転入超過が100人を超えている年代は、男女の15～19歳、20～24歳、25～29歳である。東京圏以外で少子化が進むと、若い世代の船橋市への転入が減ることが予想される。
- 千葉県他市町村からの転入超過が100人を超えている年代は、男女の20～24歳、25～29歳と、女性の30～34歳である。
- 一方、東京都への転出超過が100人を超えている年代は、女性の20～24歳と、男性の25～29歳である。東京都へは男女の50代までのほとんどの年代で転出超過となっているが、0～4歳については転入超過となっている。通勤等の関係で東京都へ転出する人が多いことが予想される一方、乳幼児を持つ世代の東京都からの流入は多い。